

～滑走路を守れ！羽田空港の液状化対策に挑む～

【日本の空の玄関口を支える技術とは？】

日本で唯一4本の滑走路を運用する羽田空港は、埋立地の上にあるため、液状化のリスクを抱えています。液状化による社会インフラへの被害は、経済活動の停滞など国内外への多大な影響を及ぼす恐れがあります。

このような事態を防ぐべく採用された「CPG工法」は、流動性の低いモルタルを地盤中に注入して固結体を造成し、この固結体による締固め効果で周辺の地盤を圧縮強化し、地盤の沈下や液状化を防ぎます。

工事は、空港の夜間閉鎖時間である約6時間という制限の中で、およそ150名の作業員と100台を超える車両を一斉に稼働させ、“安全に管理しながら施工する”という難しい課題に日々直面しながら、日本の空の玄関口を支えるため、挑戦しています。



【なぜ、建設業界に？】

学生の頃、発展途上国に滞在した際、未発達な社会インフラを目の当たりにし、大変な衝撃を受けました。この経験から、海外実績が豊富で、海洋土木に強みを持つ五洋建設を志望しました。入社後は、東日本大震災関連工事を経験したのち、主に海外事業に携わり、現在羽田空港での工事に取り組んでいます。

五洋・みらい特定建設工事共同企業体
(所属: 五洋建設(株))
監理技術者 出頭 一雅



東京空港整備事務所とともに東京国際空港の誘導路・滑走路の液状化対策に取り組んでいます。

五洋建設は働き方改革・担い手確保について積極的に取り組んでいます。

<https://www.penta-ocean.co.jp/sustainability/social/workstyle.html>

東京国際空港A滑走路北側取付誘導路他地盤改良工事 五洋・みらい特定建設工事共同企業体

